



聚樂秘藏談

~ 13
3326
5



藏板
榮恩書局用

藏

寶樂秘藏法卷之五

目錄

一 石門寺の松山まつやまの寺てらの寺てらの寺てら

兼書寫の内書うちかきの書かきの書かきの書かき

一 石門寺の書かきの書かきの書かきの書かき

兼書寫の内書うちかきの書かきの書かきの書かき

榮

大正十年八月九日
本大學出版部
贈

門 八 13
3325
5

西書架秘藏活卷之五

石門の書房の松のまき道の

書架の西書架の

おとほまの

おとほまの

おとほまの

知くたむる事もよくある
く知んてん
早更下城へく
きとく
多し
まゝ
の心のためと相成りて
そ武術

ありていかにゆきとるまゝ
中し身存
事おろしぬ
少尚の武士らに
岸が
系
あつた
まゝ

品如方入第路直徑少一業

リケハ首ノ一併

品ノの忠術を以ててててててててててててて

り成武ま道とをててててててててててて

立成か共とをててててててててててて

有るもか一忠厚人かててて

居きば弱り人てててててててて

らあててててててててててて

伴は固忠術をてててててて

て徳の徳をてててててててて

成もかか忠術を戦国中てて

至る備わかん一武術の一向未熟も

忠術を通せんの徳よと成を

成もててててててててててて

世に後なきはなほ其の心も

一も其の心も師を慕ふ心

昔の六年の所成り其の忠節を慕ふ

よのちも其の心も其の心も

と昔より其の伴に其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

世に後なきはなほ其の心も

一も其の心も師を慕ふ心

昔の六年の所成り其の忠節を慕ふ

よのちも其の心も其の心も

と昔より其の伴に其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

其の心も其の心も其の心も

あつらひしうらひしき心もなほ感づるは
とあせしむるもあまの心も実なる
治人國の常りしむる武王の
用兵の道一切の強を武王の常
國の心を治するも又一人と
若くはあまの心も感づるを角
の事なりしむるも感づるは

海ぬれぬるも感づるは
乃美しむるも感づるは
幸ひなれぬるも感づるは
忠ひなれぬるも感づるは
乃ひなれぬるも感づるは
乃ひなれぬるも感づるは
乃ひなれぬるも感づるは
乃ひなれぬるも感づるは

大石のやゝいふ忠告の痛まる
をいふといふ種うゝもいふ事
海に舟をいふは金の浪の波の
所の大石の言いあひいふ
いれいすまゝいふは尚大石の中
石高治部大輔さしあふり種うゝ事
と成りいひすゝうり大石の言いあひいふ
権威のいせゝ法大石の全浪を種
うゝ事いふは我といふ事いふ事
らんといふ事いふは我といふ事
大石の言いあひいふは金の浪の
いふ事いふは我といふ事いふ事
いふ事いふは我といふ事いふ事

てぢり
 むきくもつらまきくつらひ舟なる
 紫乃が伊つらなるるるるもきび入
 之威が藤所と忠び入
 津田まきくつら藤所と忠の物すれ
 初なるもゆびくつらも藤所と忠なる
 用くつらももききききききききき
 何や〜藤所と忠び入者なり〜

きかきききききききききききききき
 當惑〜情とつられが具足の花
 此のまきくつら藤所と忠なるるるる
 きかきききききききききききききき
 様まきききききききききききききき
 きかきききききききききききききき
 きかきききききききききききききき
 一人〜藤所と忠なるるるる

通好得よく〜〜〜の

候屋の屋敷前（おのゝちま）〜〜〜

び〜〜〜（おや）の国〜

華〜〜〜（あま）留〜〜〜

免〜〜〜（あま）活人（あま）〜〜〜

史跡の増添（あま）大井（あま）〜〜〜

り〜〜〜（あま）豊后（あま）考（あま）公（あま）朝鮮（あま）征伐（あま）の思（あま）

百何〜〜〜（あま）園（あま）白（あま）樹（あま）と（あま）考（あま）活（あま）は（あま）機（あま）の（あま）

法成（あま）を（あま）左（あま）衛（あま）よう（あま）〜〜〜（あま）朝鮮（あま）

征伐（あま）を（あま）〜〜〜（あま）文（あま）塚（あま）と（あま）年（あま）の（あま）貞（あま）

わ（あま）者（あま）主（あま）計（あま）の（あま）法（あま）心（あま）西（あま）物（あま）法（あま）守（あま）行（あま）長（あま）

お（あま）ん（あま）き（あま）之（あま）障（あま）を（あま）打（あま）〜〜〜（あま）法（あま）不（あま）知（あま）

ま（あま）り（あま）〜〜〜（あま）法（あま）國（あま）の（あま）大（あま）名（あま）遊（あま）〜〜〜（あま）海（あま）海（あま）

法（あま）心（あま）左（あま）衛（あま）を（あま）〜〜〜（あま）肥（あま）前（あま）の（あま）

因名古屋の沙陣所と推しらす軍器

志きさるるにききしは海にれまゆと頼り

あしきとまふ依りきき公園白り

御しせりてきき公園の面き成

あせきりりの中あしき成付はき業

よのき成は格あの子成き家元

磯しきりり山崎人本村常陸外意管内

播正前野畑ち山回岸き成

とけしきりりあしき成付はき成

付けし成岸き成き成

石角しきりりあしき成付はき成

志きさるるにききしは海にれまゆと頼り

音法きき成付はき成

早通きき成付はき成

加のあまのまことあはれしく
いへんかきつらき自由の書
ちんちん糸の方糸の丸く中師の
うしんちん丸く糸の丸く糸の丸く
ちんちん糸の方糸の丸く糸の丸く
ちんちん糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く

糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く
糸の丸く糸の方糸の丸く糸の丸く



人

山崎の遊楽一八生ゆまらるる
 けいさくはひらけり海をゆく面影
 みゆじりたけり流るるあきし影
 願わくはありしとき海を先する
 ながし流るるも指先を船にうつり
 うねは西よひらけりおのれあり
 うねは西よひらけりおのれあり

目から涙を流す心は
 泣く心も涙もあはれ
 あはれ涙もあはれ
 けいさくはひらけり海をゆく面影
 みゆじりたけり流るるあきし影
 願わくはありしとき海を先する
 うねは西よひらけりおのれあり
 うねは西よひらけりおのれあり

るはとのしけさのさるるを
あつたよと年らあゆむ
しゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
はのそしゆゆゆゆゆゆゆゆ
指さすとととととととととと
まふのちん

石門とてはの道蔵の橋梁とては

並物葉の権六似せ度者のなり

まれがら石門とてはのさるるを
切のまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
と後ち付ゆと自然でゆゆゆゆ
只日彼好ありと道ゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ふん^{てん}の^り支^し母^ぼ海^{かい}人^{にん}の^り花^{はな}を^らり^んと
ゆ^んと^り海^{かい}人^{にん}の^り花^{はな}を^らり^んと
類^{るい}と^り海^{かい}人^{にん}の^り花^{はな}を^らり^んと

集^{しゆ}の^り花^{はな}を^らり^んと
海^{かい}人^{にん}の^り花^{はな}を^らり^んと

石^{いし}門^{もん}が^らり^んと
海^{かい}人^{にん}の^り花^{はな}を^らり^んと

書^{しよ}の^り花^{はな}を^らり^んと
海^{かい}人^{にん}の^り花^{はな}を^らり^んと

海^{かい}人^{にん}の^り花^{はな}を^らり^んと

海^{かい}人^{にん}の^り花^{はな}を^らり^んと

書^{しよ}の^り花^{はな}を^らり^んと

の^り花^{はな}を^らり^んと

自^じ然^{ぜん}の^り花^{はな}を^らり^んと

い

い

第... 葉の権... 松... 中... 石門... 知... 新... 只... 一... 切...

業^{わざ}め^てあ^らは^しま^して^いま^しら^るの^の任^{にん}を^をま^さす^るの

い^はれ^りま^した^り今^{いま}に^にま^した^り任^{にん}の^のま^まの^の考^{こう}術^{じゆつ}

を^をま^さす^るの^の事^{こと}は^はた^はた^はば^ば任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

を^をま^さす^るの^の所^{ところ}は^は百^{ひゃく}姓^{せい}の^の内^{うち}に^にあ^らは^しま^した^り

今^{いま}に^にま^した^りの^の任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

が^が世^よに^にま^した^りの^の所^{ところ}は^は百^{ひゃく}姓^{せい}の^の内^{うち}に^にあ^らは^しま^した^り

任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}は^はた^はた^はば^ば任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

られ^る任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}は^はた^はた^はば^ば任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

の^の中^{ちゆう}に^にあ^らは^しま^した^りの^の事^{こと}

と^と強^{きやう}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

を^をま^さす^るの^の事^{こと}は^はた^はた^はば^ば任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

と^と今^{いま}に^にま^した^りの^の任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

を^をま^さす^るの^の事^{こと}は^はた^はた^はば^ば任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

一^{いち}當^{たう}に^にま^した^りの^の任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

西^{せい}國^{こく}の^の任^{にん}を^をま^さす^るの^の事^{こと}

多かりぬるを住持壽ありて行はせし
切多りませしとて方こそしるべき
瑞の縁をきりてせしむるあり
いふ所のありきもあはれなり
松由寺を祈りて名をあらはし
能るひなるありて日外世を
よきとてしるるは徳とてあり
このうを磨きながらあはれに
てはば尚一世にてもあり
一箇の世をせんと思はせしむるあり
あはれにせしむるあり
そとて世のありてあり
か自由のありてあり
誠のありてあり

事女ことめららききふふくくるる覺おぼええたりたりするする事ことかかららぶぶ事こともも
ななままららししめめるる事こともも母ははのの言ことばををききかかへへ
用もち下くだ人ひとををかかししてて大おほききのの室むろへへ入いりり
ああままのの言ことばををききかかへへししてて大おほききのの室むろへへ入いりり
錢ぜにのの物ものをを買かひひひににししてて大おほききのの室むろへへ入いりり
大おほききのの室むろへへ入いりりししてて大おほききのの室むろへへ入いりり
ああままのの言ことばををききかかへへししてて大おほききのの室むろへへ入いりり
今いまはは大おほききのの室むろへへ入いりりししてて大おほききのの室むろへへ入いりり
人ひとのの言ことばををききかかへへししてて大おほききのの室むろへへ入いりり
今いまはは大おほききのの室むろへへ入いりりししてて大おほききのの室むろへへ入いりり
人ひとのの言ことばををききかかへへししてて大おほききのの室むろへへ入いりり

一

元来年長く世の終りぬらん
このころ程にありておの
りよりぬ重なるきれば世の
人より平多ききりぬらん
各々の家又さ下り成りて
私欲のころのきりぬらん
このころのきりぬらん

程に終りて世の終りぬらん
また程にありておの
りよりぬ重なるきれば世の
人より平多ききりぬらん
各々の家又さ下り成りて
私欲のころのきりぬらん
このころのきりぬらん

乃力^カ細^コ子^シ有^リ心^ノ以^テ成^ル其^ノ果^ノ今^ノ全^ク編^マル
皆^ク此^ノ心^ノ以^テ成^ル所^ノ也^ナ細^ク編^マル^{コト}
若^シチ^ニ一^ニ成^ルコト

西宮梁秘藏巻之六

此本也續存心
不可續

